

国際ロータリー第 2660 地区 第 4 組 2016～2017 年度

INTERCITY MEETING ROTARY DAY

報告書

テーマ

『わたしたちの奉仕』

経験の分かち合いと、成長のために

IM第4組各クラブが過去の奉仕活動を発表する参加型IMRD

第2660地区IM第4組ロータリーデー共同奉仕事業
益城町復興課の地域復興プロジェクト『未来トーク』を支援します。

とき/2017年4月8日(土)
ところ/シェラトン都ホテル大阪
主催者/第2660地区ガバナー

午後1時30分開会
4階 浪速の間(西)
松本 進也

<参加クラブ>

八尾 RC/大阪柏原 RC/八尾東 RC/八尾中央 RC/東大阪 RC/

東大阪東 RC/東大阪西 RC/東大阪みどり RC/大阪ネクスト RC/東大阪中央 RC

ホスト

東大阪中央ロータリークラブ 06-6772-2320

第 1 部 プログラム (4 階 浪速の間 西)

13:30	開 会 式	司 会	岡本 慎一
	点 鐘	第 2660 地区ガバナー	松本 進也
	開会の辞	第 2660 地区ガバナー補佐	林 芳繁
	国家斉唱「君が代」	ソングリーダー	大崎 康枝
	ロータリーソング「奉仕の理想」	ピアノ	辻本 恭子
	ガバナー及び来賓ご紹介	司 会	岡本 慎一
	ガバナー挨拶	第 2660 地区ガバナー	松本 進也
	歓迎の辞及び参加クラブ紹介	ホストクラブ会長	小川 高弘
	本年度 IMRD の趣旨説明	I MRD 実行委員会委員長	浅野 光男
	出席報告	I MRD 登録委員長	飯田 政信

第 2 6 6 0 地区 I M 第 4 組ロータリー・デー共同奉仕事業

益城町『未来トーク』への支援のご報告	I MRD 実行委員会委員長	浅野 光男
--------------------	----------------	-------

14:00 各クラブ プレゼンテーション テーマ「わたしたちの奉仕」

1. 「リーダー研」・「自然の中で」	八 尾 R C	吉田 法功
2. 「米作り奉仕」	大阪柏原 R C	小原 進
3. 「姉妹クラブとの共同奉仕事業」	八 尾 東 R C	鈴木 洋
4. 「恵まれない子供達のためのプロジェクト」	八尾中央 R C	藤木 良顕
5.	東 大 阪 R C	岩佐 嘉昭
A 「花いっぱいプロジェクト」	D 「ベトナムハノイ SOS 村への物的支援」	
B 「NPO 東大阪日本語教室への支援」	E 「ラグビー ロータリーフレンドシップ マッチ」	
C 「小学生大相撲観戦」	F 「東大阪 R C ・台中 R C 共同プロジェクト」	

休 憩 (10 分)

6. 「よろず相談室・他」	東大阪東 R C	芳田 至弘
7. 「自転車マナーアップキャンペーン」	東大阪西 R C	中西 英二
8. 「出前授業 (東大阪市内中学校)」	東大阪みどり R C	杉森 隆志
9. 「大阪ネクスト RC10 年の奉仕活動の軌跡」	大阪ネクスト R C	菊池 京子
10. 「ケニア・ナイロビ・シーブケア学校給食支援バスプロジェクト」	東大阪中央 R C	岩橋 竜介

16:30 閉 会 式

講評及び次年度ホストクラブ紹介	第 2660 地区ガバナー補佐	林 芳繁
次年度ホストクラブ挨拶	八尾東ロータリークラブ会長	中澤 剛
閉会の辞	I MRD 実行委員会副委員長	佐藤三千秋
ロータリーソング「手に手つないで」	ソングリーダー	大崎 康枝
	ピアノ	辻本 恭子
点 鐘	第 2660 地区ガバナー	松本 進也

休 憩 ・ 開 場 移 動

第 2 部 懇 親 会 17:00~18:00 (4 階 浪速の間 東)

17:00	司 会	I MRD 懇親会委員長	岩崎 史郎
	開会のことば・乾杯	第 2660 地区ガバナー補佐エレクト	百済 洋一
	閉会のことば	ホストクラブ会長エレクト	宮田 照男

開 会 式

ガバナー挨拶

国際ロータリー第 2660 地区

2016-2017 年度ガバナー 松本 進也



本日は IM 第 4 組ロータリーデー開催にあたり、IM 第 4 組 10 クラブの皆さんをはじめとする多くのロータリアンの皆さんにご来臨頂きまして御礼申し上げます。

さて、9 か月前にガバナーを拝命し、残り 3 ヶ月弱となりました。当方年度では IM 再編成やガバナー補佐選出方法の変更など、沢山の出来事ございましたが、最も重要な案件は、やはり 2016 年規定審議会の決定でござい

ます。クラブに柔軟性を持たせるという、非常に大きな意味を持つ種々採択がなされました。

また、今後は、3 月 27 日付で R I から加盟認証を受けた「ロータリー学友会」が 5 月 13 日に創立総会を開催し、4 月 17 日には 82 番目のクラブである大阪水都 RC の創立総会があり、続いて 6 月 1 日にチャーターナイトが開催予定です。この 2 つは地区にとっても画期的な出来事であります。

また、IM ロータリーデーも本日が 6 回目となり、残すところは 4 月 22 日の IM 第 8 組のみとなりました。各組とも非常に趣向を凝らしておられます。また、周年行事としては、本日夕方からの開催の大阪城北をはじめとして、東大阪、大阪梅田、大阪東、大阪西と 5 クラブの記念式典の出席がございました。

さて、第 1 部は IM 第 4 組共同奉仕事業として実施しておられる、益城町未来トークへの支援の報告とのことで、当方も益城町のホームページを拝見しました。高校生、大学生を中心に昨年 10 月 8 日、12 月 18 日、本年 1 月 14 日の 3 回に亘り、地域復興に向け、活発なワークショップが開催されたようです。結果、5 つのプロジェクトチームが発足され、10 年間街灯がなかった益城町に通常の街灯ではなく、子供や若者がデザインしたユニークな街灯を制作するアイデアなど、非常に若者の感性に溢れた提案が行われていることに感銘を受けました。熊本震災復興としては、地区としても全 81 クラブに賛同を得た阿蘇支援プロジェクトを実施しておりますが、IM 独自の取り組みとしても復興支援を行って頂くことはロータリーの理念に叶う、素晴らしい事業と存じます。

また第 2 部では「わたしたちの奉仕」をテーマとして各クラブからのプレゼンテーションが行われるとのこと、各クラブの思いのこもった奉仕活動をしっかりと拝聴させていただきます。

最後になりましたが、IM 第 4 組の更なるご発展と本日ご参集の皆様のご多幸とご健康を祈念申し上げます。

開会の辞



国際ロータリー第 2660 地区
IM第 4 組ガバナー補佐 林 芳繁

只今より国際ロータリー第 2660 地区第 4 組 2016～2017 年度インターシティミーティング、ロータリーデー、『わたしたちの奉仕』をテーマに、また、「経験の分かち合いと、成長のために」をサブテーマとして開会致します。本日は、第 2660 地区 松木進也ガバナーにお越し頂き、多数の御来賓の皆様方をお迎えし、

そして、第 4 組のロータリアンの皆様、

多数御出席頂きました事、厚く御礼を申し上げます。

なお、ホストクラブである、東大阪中央ロータリークラブ全会員の皆様方、本日のために大変な御準備と御支援、御協力頂いたことに深く感謝申し上げます。

それでは、国際ロータリー第 2660 地区 IM第 4 組ロータリーデーを開会致します。

歓迎の辞及び参加クラブ紹介



国際ロータリー第 2660 地区
2016-2017 年度IMRDホストクラブ
会長 小川 高弘

皆様、こんにちは。

本日はお忙しい中、ご来賓の皆様、そして大勢のロータリアンの皆様にご参集頂きまして誠に有難う御座います。

国際ロータリー第 2660 地区 IM第 4 組のロータリーデーのホストクラブを代表致しまして厚くお礼申し上げます。松本進也ガバナー、

林芳繁ガバナー補佐のご指導を頂き、本年度のロータリーデーのテーマを「わたしたちの奉仕」・「経験の分かち合いと、成長のために」とさせて頂きました。本年度のロータリーデーは趣向をかえ、10クラブの代表の方に過去に実施してきた奉仕活動を発表して頂く

ことで、10クラブ参加型のロータリーデーとさせて頂きました。

10クラブの発表から得た奉仕活動を参考にし、クラブ相互の「奉仕」を中心とした親睦や協力、更には今以上の奉仕活動が生まれてくることを期待して企画させて頂きました。また今回のロータリーデーを開催するに当たり、各クラブの皆様には多大なご協力を頂きましたことをこの場をお借りしてお礼申し上げます。有難う御座います。

続きまして本日ご参加のロータリークラブの皆様をご紹介申し上げます。

八尾ロータリークラブ山本会長・そして会員の皆様、
大阪柏原ロータリークラブ小原会長・そして会員の皆様、
八尾東ロータリークラブ中澤会長・そして会員の皆様、
八尾中央ロータリークラブ藤木会長・そして会員の皆様、
東大阪ロータリークラブ石橋会長・そして会員の皆様、
東大阪東ロータリークラブ芳田会長・そして会員の皆様
東大阪西ロータリークラブ出口会長・そして会員の皆様
東大阪みどりロータリークラブ阪田会長・そして会員の皆様、
大阪ネクストロータリークラブ柳川会長・そして会員の皆様、
東大阪中央ロータリークラブの会員、
以上10クラブの皆様です。

それでは本日のロータリーデーを通じて、皆様の奉仕の精神が今以上に広がることを願い、そして最後までご協力賜りますことをお願いし挨拶とさせて頂きます。
有難う御座いました。

本年度 IMRD の趣旨説明



2016-2017 年度IMRDホストクラブ
実行委員会委員長 浅野 光男

今年度IMロータリーデーホストクラブとして、IM第4組各クラブの方々との共同奉仕事業としての主旨内容を説明させていただきます。

昨年の4月14日突如として発生致しました熊本大震災から4ヶ月後の8月、我がクラブの

クラブ奉仕活動において。日本国際飢餓対策機構(我がクラブ岩橋会員は理事長)との共同奉仕活動として、大震災にあわれた熊本県地域の子供達を招待して楽しい1日を過ごしてもらおうバスツアーを開催させていただきました。その折、時間の間をぬって。最大震源地でありました益城町]周辺を視察、震災の発生が無ければ地名すら知られていなかった地域でしたが、その甚大な被害状況や益城町役場のほぼ機能不能な現状に復興の目処などとうてい望めそうも無い風景に接しまして大変な衝撃を受けておりました。

その中でこのままではだめだと益城町の若者達が立ち上がり地域復興プロジェクト「未来トーク」を立ち上げ活動を開始致しておりました。しかし、何分にも無予算、無報酬の為、なかなか実質的な運営がスムーズに進行出来ていないとの情報を得まして支援先候補として長期に亘り検討させていただいておりました結果、昨年我がクラブが行った熊本大震災のクラブ奉仕イベント内容とは重複せず、今回のテーマに則った奉仕活動にふさわしい支援先であるとの判断に至り、IM第4組ロータリーデーの共同奉仕事業に決定させていただきました。

それに伴いまして2月4日熊本益城町を訪問してまいりました。面会会場であります益城町役場内の会議室には向井副町長はじめ、役所職員の方々そして「未来トーク」を立ち上げた若者達数十名が出迎えていてくれました。

長時間に亘り説明を受け、なみなみならぬ復興計画への熱意が伝わってまいりました。その後当方からの支援に至った経緯を説明、特に2660地区IM第4組10クラブの共同奉仕支援事業である事をしかと伝えさせていただきました。その他様々な会話に、大変有意義な時間を過ごす事ができました。

当日の会場には地域の新聞社熊本日新聞社熊本朝日新聞社が取材に訪れ我々もインタビューを受けました。特に朝日新聞社は3月8日(水)の大阪版の朝刊にも写真入り記事を掲載していただいております。

余談ではございますが、会議終了後、役場職員の方のご案内で訪れました熊本大学のボランティア広報プレハブ会場でお逢い致しました地質学者の村井教授の話しによりますと、今回の熊本大地震は太平洋プレート移動による海構型地震ではなく、大地が強い力で押し付けられ陸地内の活断層がずれて起る内陸性地震であったとの説明を受けました。世界中でも有数の天変地異が発生する我が国日本にあって、今ささやかれている東南海大地震は必ず起ると明言されておりました。

国際ロータリー第2660地区 IM第4組ロータリーリーダー共同奉仕事業

益城町『未来トーク』支援

支援金授与セレモニー及び被災地視察 2017年3月4日(土曜日)



<支援クラブ>

八尾 RC / 大阪柏原 RC / 八尾東 RC / 八尾中央 RC / 東大阪 RC / 東大阪東 RC
東大阪西 RC / 東大阪みどり RC / 大阪ネクスト RC / 東大阪中央 RC



若者たちが被災した益城町の復興のためにできることを話し合う「未来トーク」の2本の音引きには「皆で幅広くトークをして、参加者らと長く付き合いたい」という二つの思いを込めた。

益城の復興支援 若者らに70万円
府内ロータリークラブ

熊本県益城町の復興に立ち組む若者たちを応援しようと、府内のロータリークラブが支援金70万円を贈った。同町では15〜30歳の若者が、町をPRする「益城チャンネル」づくりなど五つのプロジェクトチーム（PT）で活動しており、その資金に充てる。

4日に益城町役場を訪れ、支援金を贈呈したのは東大阪、八尾、柏原の3市

にある10のロータリークラブ。社会福祉の支援先として、ボランティア団体などを通じて益城の活動を知ったという。東大阪中央ロータリークラブの小川高弘会長は「若者らしい発想で上の世代が思いつかないことをしてほしい」と話した。

同町は昨年4月の地震で98%以上の建物が損壊。約7500人が、応急仮設住宅などの「仮住まい」で暮らす。五つのPTには町内外の約30人が参加。仮設住宅の住民らに町の将来像を聞く「未来予想図」づくりや、住宅の倒壊で明かりが少なくなった町を照らす街灯の設置などを計画する。

町役場の若手職員も加わっているが「やりたいことをする以上、応援してくれる人も自分たちで見つけよう」と町予算は使わず、支援者を募っている。草井良和

支援金を受け取り復興を誓う若者ら＝熊本県益城町役場



3月8日 朝日新聞に掲載



震度7×2の衝撃!!

～平成28年熊本地震の教訓、そして復興へ～

熊本県益城町

被害状況 ①

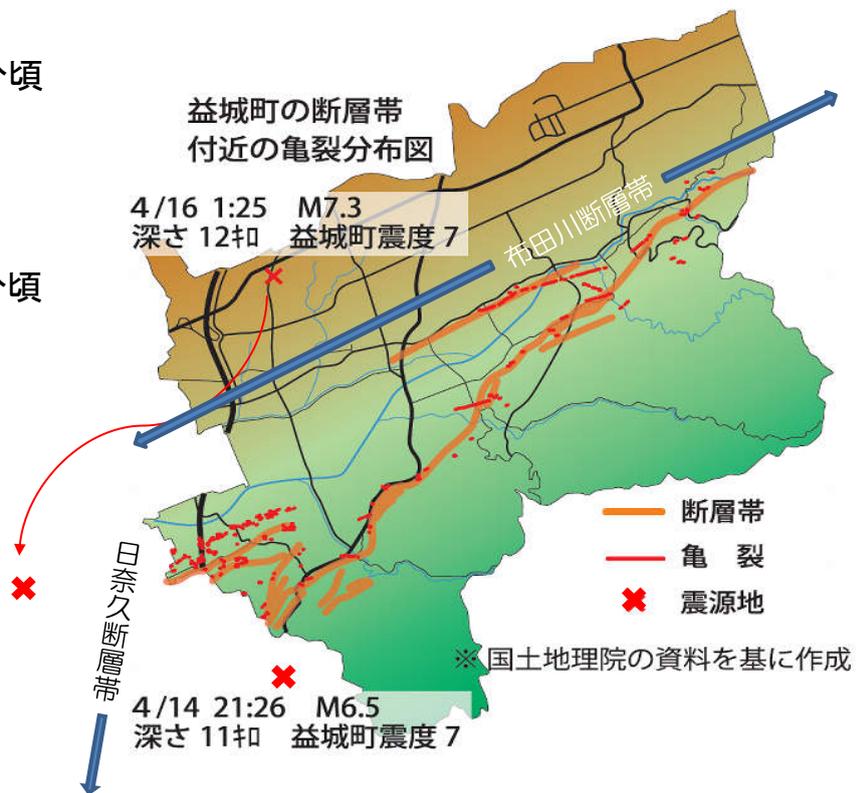
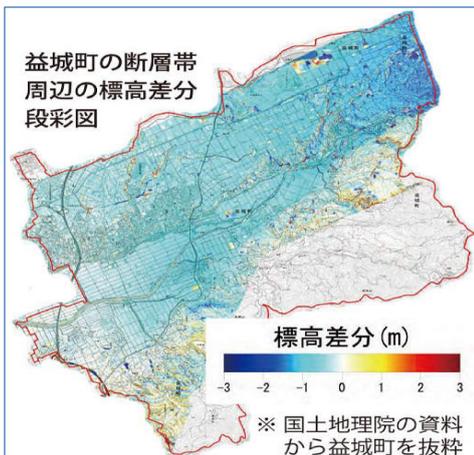
○地震の概要

【前震】

発生日時:4月14日(木) 21時26分頃
規模:マグニチュード6.5
震度:震度7(益城町宮園)

【本震】

発生日時:4月16日(土) 1時25分頃
規模:マグニチュード7.3
震度:震度7(益城町宮園)



被害状況 ②

○被害状況(H29. 3. 7現在)

【人的被害】

直接死	20名
震災関連死	14名
重傷	130名
軽傷	31名

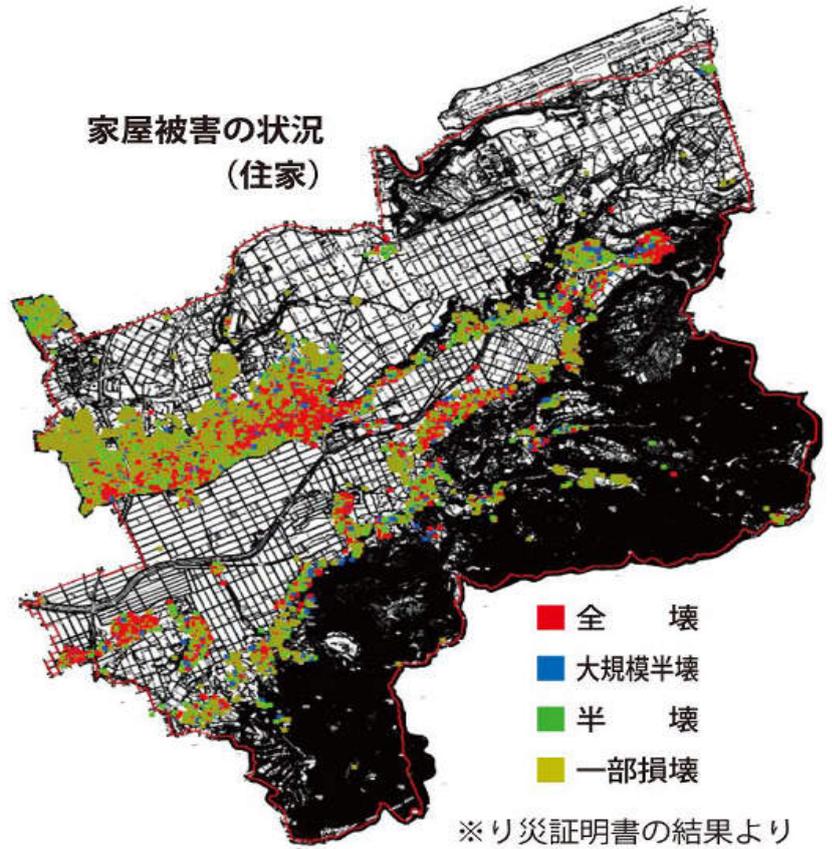
【家屋被害】

全壊	3,022棟
半壊	3,198棟
一部損壊	4,362棟
計	10,582棟

【最大避難者数(4/17朝)】

10避難所	16,050人
-------	---------

※H28. 10末閉鎖



被害状況 ③

【県道熊本高森線被災状況】



(地震前)



(地震後)

【被災状況(役場周辺の状況)】



被害状況 ④



益城町役場東側正面玄関



益城町役場西側



益城町役場北側渡り廊下

被害状況 ⑤



水田断層



擁壁被害



橋崩落



落石



道路断裂・土砂崩れ

ましき
みらい

益城町未来トークとは

益城町の未来について、若者同士で語り合うワークショップ。「町の復興のために自分達ができることは何か」を考え議論するだけにとどまらず、若者たちが主体となってその実現を目指す一連の取組み。

* 未来トークにおける若者の定義…概ね15歳～30歳まで

H28.10 開催
95名参加



H28.12 開催
32名参加



H29.1 開催
32名参加



ましき
みらい

未来トーク

①復興に向けた機運醸成

被災を機に重苦しいニュースばかりが歩みを丸となって進めるには、町全体の熱心な取組が町の雰囲気を与える。若い世代の熱心な取組が町の雰囲気を与える。若い世代の熱心な取組が町の雰囲気を与える。若い世代の熱心な取組が町の雰囲気を与える。

②若者のまちづくりへの参画

若者は将来の町の主役である一方、関心度が少なく、若者側も無関心層が多い(は限りなく0%に近い。)若者の関心度を高める機会が必要。

③将来の益城町を担う人材の育成

発災当初は沢山の支援を受けた一方、外部支援に頼らずとも、地域で行動し、自分達で町を良くするよう努めることで、若者が将来の地域のリーダーとして活躍する。



気軽に集える

コミュニティスペースづくり

「町の復興に繋がる取組」を行う人・団体が自由に利用できる共有スペースを作るプロジェクト。若者・支援団体・地元住民など、様々な人の交流を生み出すことが目的。また、復興に向けたシンボルとしてメディア等での露出も期待される。



明るい益城 (街灯設置)

被災後、暗くなっている町を明るく照らすために若者がデザインした街灯を設置するといった、「明かり」にちなんだ取組を実施予定。竹あかりやキャンドルでのイルミネーションなども検討。



Mashi フェス

老若男女一体となって、幅広い世代を巻き込みながら、皆が楽しめる「復興イベント」を開催するプロジェクト。既存イベントのステージ企画を手掛けたり、地元農家や農協とコラボした商品開発・物販などに挑戦予定。農協や商工会などと協働しながら作り上げていく。



未来予想図Ⅱ (未来の益城マップづくり)

町の裏道情報などに加え、「こんな町にしたい」と思えるものを地図に落とし込んだ「未来予想図」マップを作成する。町内を訪れる人向けの情報発信に活用。

ましき
みらい

5つの プロジェクトチーム

未来トークをきっかけに、町の復興に繋がる取組に自主的にチャレンジする5つのプロジェクトチームが立ち上がりました。

今後、住民や企業・ボランティア団体等と協働しながらプロジェクトの実現を目指していきます。



益城チャンネルで 情報発信

ホームページ、SNS、動画など新たなチャンネルをつくり、町の復興に係る情報などを広く発信。地震の風化を防ぐのみならず、魅力を発信することで町のイメージアップを目指す。

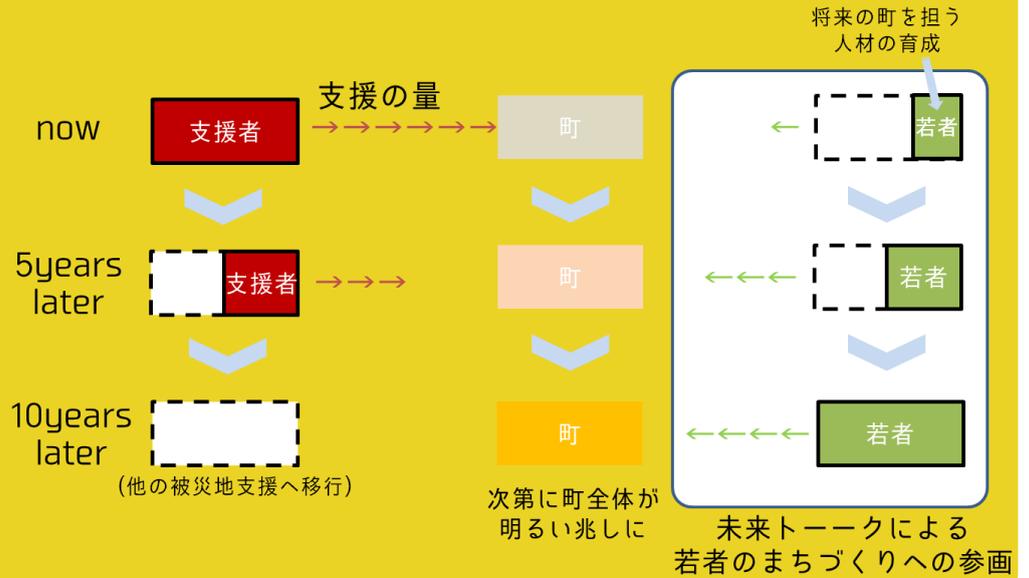
の目的

が飛び交うようになったが、復興に向けた
本の機運を高めることが求められる。若者
影響は大きく、**町全体に未来志向の明**

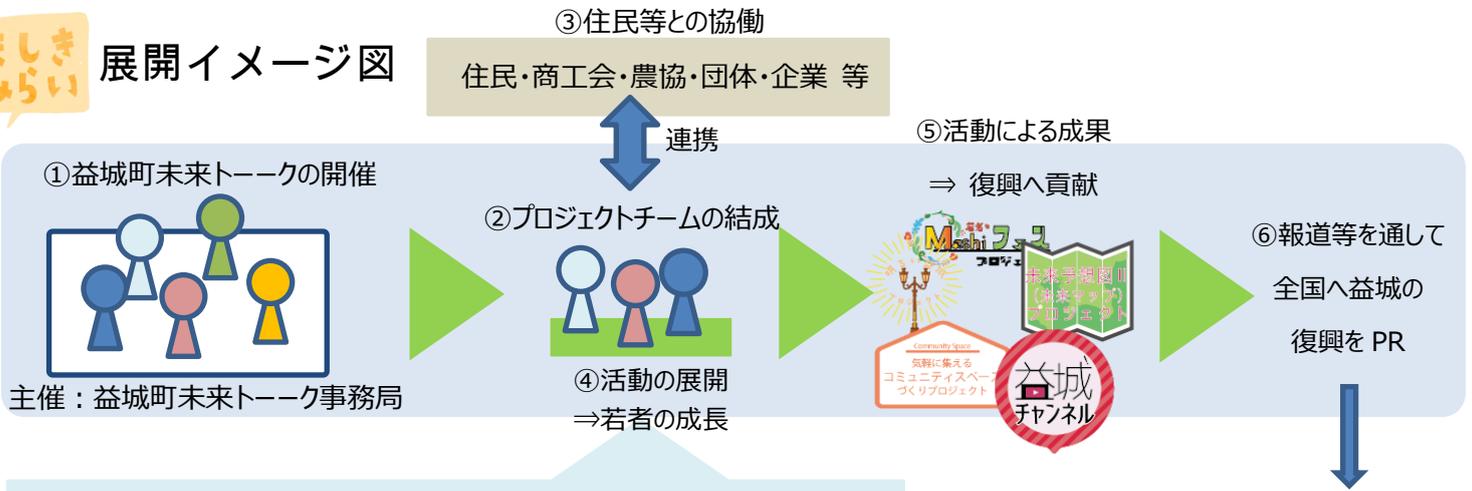
、若者の声をまちづくりに反映する仕組
い。(住民意見交換会の 20 代参加率
を惹きつけ、**町の復興を自分事として**

一方で、時間とともに支援の量は減少傾
或に住む人々が自分達で考え、自分達
地域づくり活動を若いうちから経験して
リーダー的存在に成長することに期待。

【イメージ図】



展開イメージ図



H29.2 までの報道状況

- 新聞報道…12 回
- テレビ報道…4 回
- ラジオ報道…1 回
- 企業 HP 掲載…1 回

今後の予定

H29.3.20(月・祝)
未来トーク進捗報告会 (仮)



プロジェクトチームの活動状況

気軽に集える コミュニティスペースづくり	H29.1～ 町中心部にユニットハウス設置を検討 H29.2～ 複数企業へ協力を依頼中
Mashi フェス	H29.1～ チーム内で打合せ、方針検討 H29.2～ 町長との意見交換、復興大使制度の創設要望
明るい益城 (街灯設置)	H29.1～ チーム内で打合せ H29.2～ 町と協議⇒街灯設置の企画書作成へ
未来予想図Ⅱ (未来の益城マップづくり)	H29.1～ チーム内で打合せ、方針検討 H29.2～ 仮設団地でワークショップ実施 (2 か所)
益城チャンネルで 情報発信	H29.1～ チーム内で打合せ (3 回実施) H29.2～ ジョギングフェアの映像演出について作業開始



ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2660
INTERCITY MEETING ROTARY DAY

『わたしたちの奉仕』

≪経験の分かち合いと、成長のために≫

奉仕活動紹介目次

1. 八尾RC「リーダー研」・「自然の中で」	1
2. 大阪柏原RC「米作り奉仕」	3
3. 八尾東RC「姉妹クラブとの共同奉仕事業」	5
4. 八尾中央RC「恵まれない子供達のためのプロジェクト」	7
5. 東大阪RC	10
A「花いっぱいプロジェクト」	
B「NPO 東大阪日本語教室への支援」	
C「小学生大相撲観戦」	
D「ベトナムハノイ SOS村への物的支援」	
E「ラグビー ロータリーフレンドシップ マッチ」	
F「東大阪RC・台中RC共同プロジェクト」	
6. 東大阪東RC「よろず相談室・他」	25
7. 東大阪西RC「自転車マナーアップキャンペーン」	27
8. 東大阪みどりRC「出前授業（東大阪市内中学校）」	29
9. 大阪ネクストRC「大阪ネクスト RC10年の奉仕活動の軌跡」	31
10. 東大阪中央RC「ケニア・ナイロビ・シープケア学校給食支援バスプロジェクト」	34

八尾ロータリークラブ



プレゼンター 吉田 法功会員

■プロジェクト(奉仕活動)の名称 「リーダー研」



「自然の中で」



■実施期間(継続中のもので、終了予定期日があるものはそれも含めて)

平成13年度から

平成28年度8月16日(リーダー研) 8月17日から19日(自然の中で)

■実施場所(複数の場合はその全ての場所)

八尾市立曙川中学校(リーダー研) 国立曽爾少年自然の家(自然の中で)

■奉仕の種類

青少年奉仕活動

■協力団体

八尾市小中学校生活指導研究協議会・八尾市校長会

■プロジェクト(奉仕活動)について

【1】このプロジェクト(奉仕活動)の目的

八尾市小中学校生徒の健全育成の為

【2】このプロジェクト(奉仕活動)にかかった費用(継続中のものは総予算)

30万円

【3】このプロジェクト(奉仕活動)の概要

- ・中学校の生徒会リーダーの育成をめざし、各中学校から生徒会本部役員生徒2・3名参加しての研修会(リーダー研)
- ・不登校生徒への支援を目的に、家庭・学校を離れ、自然体験を通じて社会生活への適応を試みる場の提供(自然の中で)

【4】このプロジェクト(奉仕活動)の内容

(1) どういうきっかけでこのプロジェクト(奉仕活動)を始めましたか？

当クラブ40周年記念事業としてスタート

(2) このプロジェクト(奉仕活動)を実施するに際の問題点は何でしたか？

事業の完全移行の時期

(3) このプロジェクト(奉仕活動)を実施したことにより、どんな結果が生まれましたか？

事業後、何がしかの変化が子供たちに見られることが学校から、報告されています。

(4) このプロジェクト(奉仕活動)を実施してよかったこと、他クラブにも推薦する内容があれば教えてください。

子供たちと共に参加することで、子供・先生・参加したロータリアンの親睦も深まりました。

大阪柏原ロータリークラブ



プレゼンター 小原 進会長

■プロジェクト(奉仕活動)の名称

米作り奉仕委員会



■実施期間(継続中のもので、終了予定期日があるものはそれも含めて)

2016年5月～2016年11月

■実施場所(複数の場合はその全ての場所)

奈良県葛城市新在家の水田(約1反)

■奉仕の種類

社会奉仕

■協力団体(当該奉仕を実施するにあたって協力したロータリークラブ、他団体、もしくは協力者名)の名称及び連絡先

協力者 和田 繁氏(農業)

〒639-0273 奈良県葛城市染野 385 番地

■プロジェクト(奉仕活動)について

【1】このプロジェクト(奉仕活動)の目的

子供達に田植えや稲刈りの体験をしてもらう。

【2】このプロジェクト(奉仕活動)にかかった費用(継続中のものは総予算)

田植事業約 39 万円、稲刈事業 約 68 万円 計 107 万円

【3】このプロジェクト(奉仕活動)の概要

柏原市近辺の3つの児童養護施設の子供達を招待する奉仕事業を毎年行っている。USJ(Universal Studio Japan)に連れて行くことが多いが、今回は米作り体験してもらう事とした。参加者は幼児17名、小学生52名、中学生21名、高校生9名、大人(学園の職員やボランティア)41名、ロータリアン21名、計161名であった。実施日6月19日(日)田植え、10月16日(日)稲刈り、芋ほり 11月5日(土)脱穀、粳摺り

【4】このプロジェクト(奉仕活動)の内容

(1) どういうきっかけでこのプロジェクト(奉仕活動)を始めましたか？

数年前からこういう事業をしたいと会員の間で構想を練っていた。

(2) このプロジェクト(奉仕活動)を実施するに際の問題点は何でしたか？

実施場所の選定に最も苦勞した。

その他には農家との折衝、大型バスやロータリアン等の車の駐車場の確保、食事の場所(雨降りの可能性もある)の確保、トイレの確保、手足の洗い場の確保等があった。

(3) このプロジェクト(奉仕活動)を実施したことにより、どんな結果が生まれましたか？

学園の子供達が一緒に汗して働き、仲良くなれた。

米作りの大変さを理解できた。

田植えや、稲刈りの数日後に、参加した子供達が感想を作文や寄せ書きで多数届けてくれた。

(4) このプロジェクト(奉仕活動)を実施してよかったこと、他クラブにも推薦する内容があれば教えてください。

毎日、主食として何気なく食べているお米がどのようにして出来るかを理解できたと思う。子供達にとっても、農業の経験のない大人にとっても、有意義な事業であったと思う。他クラブでも希望があれば、喜んでそのノウハウをお伝えしたい。

八尾東ロータリークラブ



プレゼンター 鈴木 洋会員

■プロジェクト(奉仕活動)の名称

①救急車贈呈 (8台)



② フィリピン マニラ近郊の高校卒業生総代表彰と奨学資金



■実施期間(継続中のもので、終了予定期日があるものはそれも含めて)

①1985-2005年 ②2010-2015年

■実施場所(複数の場合はその全ての場所)

①パキスタン カラチ ②フィリピン マニラ近郊

■奉仕の種類

①人道的奉仕(国際) ②教育(国際)

■協力団体(当該奉仕を実施するにあたって協力したロータリークラブ、他団体、もしくは協力者名)の名称及び連絡先

- ①カラチミッドタウンRC(姉妹クラブ) ②ダウタウンマニラRC(姉妹クラブ)

■プロジェクト(奉仕活動)について

【1】このプロジェクト(奉仕活動)の目的

- ①パキスタンの人々を救う。 ②明日のフィリピンを担う優秀な学生を支援する。

【2】このプロジェクト(奉仕活動)にかかった費用(継続中のものは総予算)

- ①救急車1台につき修理代とパーツ代で約60万円(船便代は相手クラブ負担)
②毎年20-30万円

【3】このプロジェクト(奉仕活動)の概要

- ①八尾市日本国内自治体で役割を終えた救急車を無料で譲り受け、修理及び予備パーツをつけてパキスタンへ贈った。船賃はカラチミッドタウンRCが負担し、赤十字に良く似た団体に寄贈し、そこが運用している。
②マニラ近郊の各高校の卒業生総代数百人を表彰し、その中から十数名を奨学生に選抜し、支援する。

【4】このプロジェクト(奉仕活動)の内容

(1)どういきっかけでこのプロジェクト(奉仕活動)を始めましたか？

- ①姉妹クラブのカラチミッドタウンRCとの奉仕事業協議の中で出てきたプランである。
②姉妹クラブのダウタウンマニラRCが30年以上続けている事業であり、これに賛同し、共同事業にした。

(2)このプロジェクト(奉仕活動)を実施するに際しての問題点は何でしたか？

- ①パキスタンの国税との間で無税にする話がいつも長くかかり陸あげが遅れた。これは相手クラブの担当であった。
②現地ダウタウンマニラRCが主体的に活動してくれるため、連絡調整と式典参加なので比較的楽に進行している。

(3)このプロジェクト(奉仕活動)を実施したことにより、どんな結果が生まれましたか？

- ①多くのパキスタン国民の命を救えた。クラブでは自治体からの譲り受け、出荷等奉仕活動を行う中での親睦が図れた。
②現地では高校生及び父兄が楽しみにして参加し、自宅、学校でロータリーのことを話し、良い広報になっている。八尾東RCとしては余り苦勞せずに良い奉仕事業に参加出来ている。

(4)このプロジェクト(奉仕活動)を実施してよかったこと、他クラブにも推薦する内容があれば教えてください。

- ①1999-2000年に現地を訪れ日本で10年、パキスタンで15年活動している救急車を見て感動した。
②・明日のフィリピンを担う若者が一堂に会し、ロータリーに感謝し広報している。
・奨学生に選抜された子は大学生となり、ローターアクトとして活動している。

■協力団体(当該奉仕を実施するにあたって協力したロータリークラブ、他団体、もしくは協力者名)の名称及び連絡先

- ・ Rotary Club of MACTAN <https://rotarymactan.wordpress.com/contact-us/>
パスト会長 石田 武司 isi.cebutop@gmail.com
- ・ NPO 法人『セブンスピリット』 seven-spirit.or.jp
理事長 田中 宏明 tanaka@seven-spirit.or.jp

■プロジェクト(奉仕活動)について

【1】このプロジェクト(奉仕活動)の目的

極貧の環境の中にあるスラムの子供たちに学習の機会を与えることにより、彼らは秩序や協調性を身に付けて次第にライフスキルを獲得していくことが出来る。我々はこの実践に成功している NPO 法人『セブンスピリット』の協力を得て、スラムの子供たちの演奏会を公立小学校の講堂において開催することが出来た。『セブンスピリット』は、5年間にわたり現地のスラムの子供たちに楽器の演奏と合奏技術を教えてきた。そして並ぶことすら知らなかった子供たちに音楽を通して、学習の楽しさや協調性の大切さを覚えさせることに成功している。これはまさしくライフスキル育成に他ならない。

我々の活動の目的は、このような現実を地域のロータリアンや学校関係者に紹介し、今後は現地のロータリークラブと協力し合って、スラムの子供達への理解と支援の輪を拡大していくことである。

【2】このプロジェクト(奉仕活動)にかかった費用(継続中のものは総予算)

バスチャーター費 2900 フィリピンペソ (約 6800 円)

【3】このプロジェクト(奉仕活動)の概要

NPO 法人『セブンスピリット』が 5 年前からスラムの子供達を集めて、音楽を通じて様々なライフスキル教育を行っている。しかし、スラム地区はフィリピンの政府からも社会からも完全に見捨てられた集団であり、地域の人々にとってスラムの子供たちの不幸は全くの無関心事である。そのような中で『セブンスピリット』はスラムの子供たちに音楽を通して学習の機会を与え、成果を上げて来た。しかしこれまでのところスラムの子供たちへの教育成果を披露する場所も機会も与えられていなかった。そこで我々はマクタンロータリークラブに働きかけて、子供たちの音楽会開催にあたり協力してもらうことにした。幸い、マクタンロータリークラブには小学校の校長が居られ、ご好意により学校の講堂を演奏会場として提供していただくことになった。

2月19日(日)、現地はマクタン祭りの最中であり、体育館には地元小学生や父兄および学校関係者、そしてマクタンロータリークラブからは現会長、石田パスト会長、アイリーン校長、他3名が参加した。

【4】このプロジェクト(奉仕活動)の内容

(1) どういうきっかけでこのプロジェクト(奉仕活動)を始めましたか？

昨年8月、当クラブのピアニスト、山上華子氏がNPO法人『セブンスピリット』と一緒にスラムの子供たちに音楽指導を行っていることを卓話で紹介された。そして

八尾中央ロータリークラブ



プレゼンター 藤木 良顕会長

■プロジェクト(奉仕活動)の名称

恵まれない子供達のためのプロジェクト



■実施期間(継続中のもので、終了予定期日があるものはそれも含めて)

2017年2月19日(継続中)

■実施場所(複数の場合はその全ての場所)

フィリピン、マクタン島 ラプラプ市立ソーン小学校講堂

■奉仕の種類

国際奉仕

我々ロータリアンに対し、現地の子供たちのためにピアノを寄贈するプロジェクトの立ち上げを要請された。

(2)このプロジェクト(奉仕活動)を実施するに際の問題点は何でしたか？

プロジェクトを計画する第一段階として、まずは現地を訪問して実態を視察することが必要となった。当クラブの福家パストガバナーは、昨年にセブ島に行かれた泉パストガバナーからマクタンロータリークラブの石田武司パスト会長の紹介を受けた。我々の活動はこの二者の協力により支えられることになる。

一方、ピアノの寄贈と設置は、現地の環境を考えると容易では無く、また多額の費用を要するが、補助金獲得もよほどの説得力がないと困難であることが判明した。まずは現地を視察し、現地ロータリアンとの交流を図ることを目的として、我々は2016年9月17日～19日第1回セブ島視察を行った。

セブ市内のスラム地区を地元のソーシャルワーカーに案内してもらった。暗くて狭い凹凸不整の路地の両側にはドアもないスラムの人々の住居がひしめいており、近くの川はゴミであふれ、悪臭を放っていた。次いで「ゴミ山」も視察した。この「ゴミ山」こそが、スラムの人々の生活の拠り所なのだ。その後、『セブンスピリット』の教室に移動して子供たちの演奏会を見学し、子供たちと汗だくになって遊んだ。翌日、マクタンロータリークラブを表敬訪問して石田パスト会長や他のロータリアンと対面。我々が『セブンスピリット』で学習を受けている子供たちの実態を話し、演奏の模様をビデオで紹介したが、彼らの感想は「信じられない」の一言に尽きた。

(3)このプロジェクト(奉仕活動)を実施したことにより、どんな結果が生まれましたか？

今年2月19日、マクタン島にあるラブラブ市立ソーン小学校講堂で、スラムの子供達約30人によるオーケストラ演奏会を開催した。リコーダーのみならず、バイオリン、チェロ、クラリネット、フルート、トランペット、ホルン、チューバなどの楽器を使った本格的なオーケストラであった。曲目はフィリピン・日本の両国歌で始まり、クラシックやポップスなど多岐にわたった。子供たちは自分たちが演奏している楽器についてそれぞれ解説するという場面もあった。さらには舞台から降りてきて、日本語のコーラスまで披露してくれた。本当に胸を打たれる感動的な演奏会であった。

(4)このプロジェクト(奉仕活動)を実施してよかったこと、他クラブにも推薦する内容があれば教えてください。

演奏会を終えた後の子供たちの笑顔が素敵であった。多くの人々から最大級の拍手を受けて、その表情は達成感と自信に満ち溢れていた。

マクタンロータリークラブの石田パスト会長は「いやあ、実際に彼らがここまでやるとは思っていませんでした。本当に驚きました。」「セブ島の他のロータリークラブには直ぐにも働きかけてみます。行政がやらないことをやるのが、我々ロータリーの仕事です。」と言われ、我々は今回の企画の成功を感じ取ることが出来た。今後は現地ロータリアンと協力し合って、現地のロータリークラブからスラムの子供たちの教育支援活動に関して具体的なニーズを提供してもらえるように進めていきたいと考えている。

東大阪ロータリークラブ



プレゼンター 岩佐 嘉昭幹事

■プロジェクト(奉仕活動)の名称

① 花いっぱいプロジェクト

■実施期間(継続中のもので、終了予定期日があるものはそれも含めて)

2008年から継続中

■実施場所(複数の場合はその全ての場所)

桜橋小学校 ・ 高井田東小学校 ・ 太平寺小学校 ・ 岩田西小学校

■奉仕の種類

社会奉仕活動

■協力団体(当該奉仕を実施するにあたって協力したロータリークラブ、他団体、もしくは協力者名)の名称及び連絡先

各小学校の校長先生・教頭先生・担任の先生・PTA、

(株)竹中庭園緑化様 小阪商店街

愛ガードの皆さま 日本生命保険(相)布施支社様

(株)クニムネ様 (株)電業様 松下建設(株)様

嶋田薫公認会計士事務所様 大阪製罐(株)様

■プロジェクト(奉仕活動)について

【1】このプロジェクト(奉仕活動)の目的

みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」によって学校や地域の人々が活用方法を工夫し自らの手で「緑豊かなうるおいのある町づくりを創出すること」を目指しています。

【2】このプロジェクト(奉仕活動)にかかった費用(継続中のものは総予算)

4校合わせて年間 約 170,000円

【3】このプロジェクト(奉仕活動)の概要

- ① 種まき
- ② 植え替え(大きく育った苗をポットに移す作業)
- ③ 出荷式の企画と実施

春はサルビア・マリーゴールド、秋はパンジーの種まき、大きくなったら移植、開花をしたら出荷式を各小学校にて行いました。いずれも東大阪ロータリークラブのあいさつ、小学校校長先生のあいさつ、(株)竹中庭園緑化の担当者からの作業内容の説明があって小学生の作業が始まります。

出荷式はP T A・地元の商店街の方々への贈呈、また実際にJ Rの駅前等に植付けます。



【4】このプロジェクト(奉仕活動)の内容

(1) どういうきっかけでこのプロジェクト(奉仕活動)を始めましたか？

2005年から大阪府が推進している「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」に応える形で2008年から始めました。

(2) このプロジェクト(奉仕活動)を実施するに際の問題点は何でしたか？

小学校ごとに特色はあるものの、このプロジェクトに対して理解を示され大変協力的である。ただこの事業は(株)竹中庭園緑化様の献身的な技術指導がなければ実行できない。(株)竹中庭園緑化様は当クラブの会員の会社であり破格の経費でご奉仕をして頂いている。



(3)このプロジェクト(奉仕活動)を実施したことにより、どんな結果が生まれましたか？

小学生が小さな種を植え、水遣りを行い、大切に丁寧に育てて花を咲かせる。そして公共の場に提供していくという過程は、小さな「いのち」を大切に育てることを学ぶことにつながっていると考えます。

またJRの駅、道路脇に設置することで、社会に対して貢献する意味を学んでいます。この活動を通じて小学生とボランティアの方々とが登下校以外でも関わりを持つことで、より地域の交流が深まっているようです。

花を植えるだけでなく、花を介した地域づくり町づくりへと展開していく・・・そのきっかけとなっていることを実感します。



(4)このプロジェクト(奉仕活動)を実施してよかったこと、他クラブにも推薦する内容があれば教えてください。

JR永和駅に去年7月に真っ赤な花を咲かせたサルビアを設置しました。そして今年1月に見たときも綺麗な花を咲かせていました。

こんなに長い期間咲いているのは大変珍しいとのことですが、地元のボランティアの皆さま・PTA会員の皆さまの水遣りなど毎日たいへん良く世話をして頂いたお陰だと思えます。

この事業に携わって小学生だけでなくロータリアンにとっても「いのち」について考えさせられる良い機会になっております。

また、1年を通じて担当している小学生が成長していく姿を見るのも楽しみのひとつであります。



■プロジェクト(奉仕活動)の名称

②NPO東大阪日本語教室への支援

■実施期間(継続中のもので、終了予定期日があるものはそれも含めて)

毎年の運営資金的支援

毎年2月の暗誦・弁論大会への積極参加

■実施場所(複数の場合はその全ての場所)

東大阪日本語教室

暗誦・弁論大会の会場

■奉仕の種類

職業奉仕活動

■協力団体

無 ■プロジェクト(奉仕活動)について

【1】このプロジェクト(奉仕活動)の目的

【2】このプロジェクト(奉仕活動)にかかった費用(継続中のものは総予算)

毎年 300,000円

【3】このプロジェクト(奉仕活動)の概要

【4】このプロジェクト(奉仕活動)の内容

(1) どういうきっかけでこのプロジェクト(奉仕活動)を始めましたか？

同教室との関わりは、約20年前に当クラブの会員が東大阪をアジアの窓口にすべく、市に在住外国人の日本語教室の必要性を提唱し、市の協力を得つつ市民ボランティア活動を始めた事にあります。当初は国際奉仕の活動でしたが、時代の変遷に伴い、社会奉仕から現在は職業奉仕の担当事業となっています。

同教室の在住研修生は、企業における貴重な人材であり、ロータリークラブとして支援する事は、将にクラブとして行なう地域社会を対象にした職業奉仕活動でもあります。

(2) このプロジェクト(奉仕活動)を実施するに際の問題点は何でしたか？

当クラブは、日本語教室の運営に直接関与しているわけではないので特に問題はありません。

また、暗誦・弁論大会開催においても、当日の多くの会員参加とロータリー賞の授与を行っていますが、運営・設営には関わっていないため特にございませぬ。

(3) このプロジェクト(奉仕活動)を実施したことにより、どんな結果が生まれましたか？

RCの世界理解の理念を示していると自負している。

(4) このプロジェクト(奉仕活動)を実施してよかったこと、他クラブにも推薦する内容があれば教えてください。

学習している生徒らにロータリークラブの存在を示している当クラブ内では、今後ますます外国人労働者が増えていく風潮の中で彼ら、彼女らとの共生が重要であるということが認識できた。

また、関西圏ではそれほどではないように思うが、東京のコンビニでは働くヒトのほとんどが外国人であるということをよく耳にする。

暗誦・弁論大会に参加した、多くの会員がそんな外国人を応援していくという意識の芽生えが大変重要なことであると考えている。

更に当日の開催内容は、2日後の地元テレビで放映され、当クラブの職業奉仕活動の一

端を地域社会に伝える事が出来たものと考えます。



NPO 東大阪日本語教室暗誦・弁論大会



石橋会長から村井代表理事へ 支援金の贈呈



ロータリークラブ賞の授与



■プロジェクト(奉仕活動)の名称

③小学生大相撲観戦

■実施期間(継続中のもので、終了予定期日があるものはそれも含めて)

2012-2013	2013年	3月11日	5年生・6年生	教職員	合計100名
2013-2014	2014年	3月11日	5年生	44名 教職員3名	合計47名
2014-2015	2015年	3月10日	5年生	41名 教職員4名	合計45名
2015-2016	2016年	3月15日	5年生	43名 教職員5名	合計48名
2016-2017	2017年	3月14日	5年生	57名 教職員5名	合計62名

■実施場所(複数の場合はその全ての場所)

エディオンアリーナ大阪(大阪府立体育館)

■奉仕の種類

青少年奉仕活動

■協力団体

公益財団法人 日本相撲協会 二十山親方

■プロジェクト(奉仕活動)について

【1】このプロジェクト(奉仕活動)の目的

子供達に国技である相撲を通じて伝統文化への興味を促す

【2】このプロジェクト(奉仕活動)にかかった費用(継続中のものは総予算)

2012-2013年度	448,200円
2013-2014年度	296,300円
2014-2015年度	222,000円
2015-2016年度	256,700円
2016-2017年度	339,795円

【3】このプロジェクト(奉仕活動)の概要

主に小学生5年生を対象に大相撲春場所観戦に引率する。

基本的に、クラブの会長・幹事、委員会メンバーが小学校まで出向き、ご挨拶をいたうえで貸切バスにて、会場(エディオンアリーナ大阪)まで同行観戦後は、行と同様に小学生を小学校まで送り届ける。

他のロータリー会員は、会場にて一緒に相撲観戦を行う。



桜橋小学校出発前 石橋会長の挨拶

「みなさん 相撲観戦は初めてですか・・・？」

【4】このプロジェクト(奉仕活動)の内容

(1) どういうきっかけでこのプロジェクト(奉仕活動)を始めましたか？

時代が移りゆく中で、国技に対する世の中の関心を高める為に今後、国や地域を背負っていく小学生にスポットを当たることを考えた。

(2) このプロジェクト(奉仕活動)を実施するに際の問題点は何でしたか？

*本年度は2つの小学校が合併し初めての大相撲観戦となる為、小学校側に対して観戦日ロータリークラブから決めて連絡し、スケジュールを合わせて頂く形となり学校側のスケジュール調整などの段取りに時間が掛かりました。

*日本相撲協会に対しては、会場での移動ルートの確認や車いすの生徒さんがいる為、観客がかなり多い中での移動をスムーズにできるルートの確認など細部にわたる準備が必要であった。

(3) このプロジェクト(奉仕活動)を実施したことにより、どんな結果が生まれましたか？

テレビを通じてしか相撲を見たことが無い子供たちが、実際に観戦することで、国技独特の伝統的なことや力士の日常生活、精進の様子などを学習する機会となったことで今後の自分に何か参考になると思っています。

事業実施後に、各小学生では感想文の提出もあるようです。

RCとしては参考にさせてもらい小学生・ロータリークラブ双方でのより充実した事となると考えます。



(4) このプロジェクト(奉仕活動)を実施してよかったこと、他クラブにも推薦する内容があれば教えてください。

大相撲観戦については、日本相撲協会を通じて行わねば多くの面で支障を来すことがあります。

また、今後は当クラブが対象の小学校を決めるのではなく東大阪市の教育委員会を窓口としてこの事業を継続させていくことも考えている。



*みなさん お疲れ様でした！ 大相撲はどうでしたか？

■プロジェクト(奉仕活動)の名称

④WCSベトナム・ハノイSOS村支援プロジェクト

■実施期間(継続中のもので、終了予定期日があるものはそれも含めて)

2013-2014・2014-2015・2015-2016 の3年間

■実施場所(複数の場合はその全ての場所)

ベトナム・ハノイ SOS マイディッチ子供村

■奉仕の種類

人道的奉仕活動

■協力団体

NPO 法人 VCI 人材戦略研究所 (ハノイ) www.vcihanoi.org

■プロジェクト(奉仕活動)について

【1】このプロジェクト(奉仕活動)の目的

2歳から18歳までの孤児250名と、生活のお世話をする女性、教職者が共同生活を行いながら子供の育成と教育を行っているSOS子供村に、生活インフラや教育設備を寄贈することで、生活基盤向上と基礎教育充実、施設卒業後の就職、自立支援を行う。

【2】このプロジェクト(奉仕活動)にかかった費用(継続中のものは総予算)

\$13,000 (3年間 3回合計)

*費用の半分は 2660 地区補助金

【3】このプロジェクト(奉仕活動)の概要

①2013-2014年度 年長者の就業支援 (PC教室設置、パソコン寄贈)

卒園が近い年長者の就業支援策として、施設内でパソコン教室設営し、機材としてパソコン11セットと周辺機材を寄贈した。(\$5,000)



②2014-2015年度 生活インフラ整備 (浄水器寄贈)

煮沸水しか飲用できない子供たちの生活環境を改善するために、キッチン・食堂と、ハウス(子供十数名ずつと世話がかりの女性が共同生活する寮施設16棟に浄水器計18台を寄贈、設置した。(\$4,000)

③2015-2016年度 幼児、児童の基礎教育環境整備 (楽器、音響設備寄贈) 幼児、低学年児童の人間形成、情緒教育を充実させるために、基礎教育設備として音楽室を設置し、楽器や音響設備を寄贈した。(\$4,000)



【4】このプロジェクト(奉仕活動)の内容

(1) どういうきっかけでこのプロジェクト(奉仕活動)を始めましたか？

過去6年間ベトナムにて2カ所の施設に就業支援や生活向上の為の支援を続けてきたが、3カ所目として候補数カ所の中から選定した。子供の数も多く、生活から教育までを同じ施設の中で過ごし自立していく中で、生活環境や教育環境の果たす役割は非常に大きく、この改善の一助になれば素晴らしい人道支援になると考えた。

(2) このプロジェクト(奉仕活動)を実施するに際の問題点は何でしたか？

何を一番必要としているかを把握するために、丹念な現地確認とヒヤリングが必要。また機材の現地調達の方法も必要だが、仲介の労をいただいたVICの阿部校長によって、非常にスムーズなコミュニケーションができ、準備を進めることが出来た。RC組織の無いベトナムにおいて、現地でのコーディネートをお願いできたのは事業成功の大きな力となった。

(3) このプロジェクト(奉仕活動)を実施したことにより、どんな結果が生まれましたか？

施設には幼児から高校生相当までの子供たちがいるが、3年間継続して支援を行った為に、全ての世代に対してある程度のレベルアップが出来た。また多くの会員が現地を度々訪問することで、クラブ内にも奉仕活動への理解がたいへん深まった。

(4) このプロジェクト(奉仕活動)を実施してよかったこと、他クラブにも推薦する内容があれば教えてください。

何度も現地に足を運ぶことなど、会員への時間的、金銭的負担はかかるが海外での人道奉仕活動は最も奉仕の喜びを実感できる活動であると思う。

■プロジェクト(奉仕活動)の名称

⑤ラグビーロータリーフレンドシップマッチ

■実施期間(継続中のもので、終了予定期日があるものはそれも含めて)

2017年 3月12日 (日曜日)

■実施場所(複数の場合はその全ての場所)

東大阪市花園ラグビー場 第2グラウンド

■奉仕の種類

青少年奉仕

■協力団体の名称及び連絡先

大阪府ラグビーフットボール協会 尼田 勝彦理事長様
同普及育成委員 スクール委員長 大阪府U15 スクール選抜 監督 石川悟様

■プロジェクト(奉仕活動)について

【1】このプロジェクト(奉仕活動)の目的

スポーツを通じた青少年育成と 2019年に日本で開催されるワールドカップまでラグビー熱を持続させると共に選手の裾野拡大を図ることを目的とする。
またラグビースクールの卒業親善試合の後援。

【2】このプロジェクト(奉仕活動)にかかった費用(継続中のものは総予算)

2016-2017 435,000円

【3】このプロジェクト(奉仕活動)の概要

対象： 大阪府下兵庫・奈良・京都・和歌山・滋賀の
ラグビースクールに所属する小学生6年生 参加人数 67チーム 883名
東大阪RC 11名 合計894名(保護者・関係者を含めるとおよそ2,000名)



チームワークを大切に楽しく力いっぱいプレーして、将来のトップリーグ、日本代表選手を目指して頑張ってください。(石橋会長 挨拶)

【4】このプロジェクト(奉仕活動)の内容

(1) どういうきっかけでこのプロジェクト(奉仕活動)を始めましたか？

2019年のワールドカップ日本開催決定と当クラブの60周年を記念し、それまで大阪府ラグビーフットボール協会が行っていた小学6年生のスクール生の卒業親善試合を後援する事とした。



(2) このプロジェクト(奉仕活動)を実施するに際の問題点は何でしたか？

東大阪市花園ラグビー場にてラグビーワールドカップの開催も決定し、未来を担う子ども達を対象に今回初めての活動という事も有り、どの様にして進めて行けば良いのか検討して行く過程でよりスムーズに開催して行くには大阪府ラグビーフットボール協会様の協力を頂く事となった。

(3) このプロジェクト(奉仕活動)を実施したことにより、どんな結果が生まれましたか？

当クラブ内においてラグビーと花園ラグビー場への関心が一層強まりました。また、ラグビーフットボール協会においても、これまで外部団体から資金援助を受ける事が初めての経験であった為、今後より広く協力を仰ぐために努力しようという意識が生まれたと思う。当日お集まりいただいた父兄に対してロータリークラブを知ってもらうよい機会となった。

(4) このプロジェクト(奉仕活動)を実施してよかったこと、他クラブにも推薦する内容があれば教えてください。

非常にたくさんの子供達(男女混合)が熱心にボールを追う姿を見せて頂き、ラグビーと言う競技が青少年の育成に非常に効果的なスポーツであると認識した。
今後はIM内の各クラブ、他のクラブにもご協力を呼びかけて参りたいと考えます。

2017年3月12日

東大阪市花園ラグビー場

第1回 ロータリーフレンドシップマッチ開会式の様子です。

石橋会長から記念品贈呈。



各チームのキャプテンと関係者での記念撮影



参加賞として全員に渡した 紙製のラグビーボール型 貯金箱

第1回 ローターフレンドシップマッチ

2017年3月12日

東大阪ロータリークラブ

東大阪ロータリークラブは創立60周年を迎えました。創立以来、青少年の健全育成をはじめ地域社会に貢献しています。



*
スポーツを通じた青少年の健全育成

*
2019年ラグビーワールドカップの成功

*
ポリオの根絶

工作キット

ラグビーボール貯金箱

100円玉が500枚貯まる貯金箱。
小物入れとして使ったり、
ボールとしても遊べます。



Rotary 
東大阪ロータリークラブ

東大阪RCの会員企業が作成しました。

■プロジェクト(奉仕活動)の名称

⑥東大阪RC創立60周年記念

東大阪RC・台中RC 共同事業

「台湾少数民族の水環境の改善」

■実施期間(継続中のもので、終了予定期日があるものはそれも含めて)

2016年12月 ～ 2017年3月

■実施場所(複数の場合はその全ての場所)

台湾南投県仁愛郷 互助村 中原部落

■奉仕の種類

人道的国際奉仕

GG1638884 6重点分野 「水と衛生」

■協力団体

台中ロータリークラブ

台中市 8ロータリークラブ

■プロジェクト(奉仕活動)について

【1】このプロジェクト(奉仕活動)の目的

過去に台湾を日本が統治していたころ、旧日本軍が共に戦う原住民族部落の水道関係を整備していた。

しかしながら終戦を迎え、台湾国、政府・行政は小学校はじめ教育関係の整備はするものの、部落においてのインフラ整備については殆ど手を付けない状況が続いていた。

水の供給については、地元部落民が自ら水道パイプの補修を行うものの清潔な水を手にすることはできないことから、本プロジェクトにより、清潔な水を供給することで、500名の生活品質向上を図ることとした。

【2】このプロジェクト(奉仕活動)にかかった費用(継続中のものは総予算)

\$ 100,000.00

【3】このプロジェクト(奉仕活動)の概要

導水管を約2マイルに亘って敷き、更に30トンの貯水タンク4基を浄水フィルターと共に設置する。

【4】このプロジェクト(奉仕活動)の内容

(1) とういうきっかけでこのプロジェクト(奉仕活動)を始めましたか？

当クラブの60周年記念事業を姉妹クラブである台中RCと共同で人道的国際奉仕の分野で行うことについて協議していたところ、昔の日本になじみの深いこの地域の原住民の生活品質向上のためのプロジェクトに辿り着いた。

このプロジェクトは、GG(グローバル補助金)を使用。同教室の在住研修生は、企業における貴重な人材であり、ロータリークラブとして支援する事は、将にクラブとして行なう地域社会を対象にした職業奉仕活動でもあります。

(2) このプロジェクト(奉仕活動)を実施するに際の問題点は何でしたか？

GG申請後にRI財団の方から、水と衛生をカテゴリーにするなら、原住民の手洗いの習慣をまず実施せよとの連絡があり、現地にて台中RCが実施してくれた。

また、GGを使用するに当たっては、機器の設置だけではなく、前述したことに加え、今後に関わる研修も実施することなど、多くの準備に時間が割かれた。

加えて、本来2016-2017年度の事業ということで、昨年7月早々に申請を行ったが承認・着金が遅くなり、当初昨年の11月に機器類の設置を終え、寄贈セレモニーを行う予定であったが、そのセレモニーは先月（3月4日）にずれこんだ。

(3)このプロジェクト(奉仕活動)を実施したことにより、どんな結果が生まれましたか？

現地においては、今までにない生活環境の改善が地元住民の気持ちを変えることだけではなく、その他の自分たちの地域に対する想いが高まったと感じる。台中RC他、協力した8RCの今回の取り組みで、台中地域におけるロータリークラブの存在を行政にアピールできた。東大阪RCとして、今回は創立60周年の記念事業として、始めてGGグローバル補助金)を使用しての事業を行ったが、今後においての国際奉仕活動への意識の高まりが実感できた。

(4)このプロジェクト(奉仕活動)を実施してよかったこと、他クラブにも推薦する内容があれば教えてください。

当クラブとしては、再来年度に姉妹締結50年を迎える台中RCとの共同事業に意味があったと考える。

GG(グローバル補助金)の申請に当たっては、ここ数年、3~5件の申請が出されている。早期に地区活動費(DDF)が枯渇するという事態が起きる場合があるので、申請は年度が変わって早々に行う方がよい。

クラブ	現金	(US\$)	DDF	(US\$)	グローバル補助金
					(US\$)
実施国		12,000			
◎台中RC 他					6,000
RID3460	DDF			12,000	
					12,000
援助国					
◎東大阪RC		12,000			6,000
RID2660	DDF			20,000	
					20,000
合計	(US\$)				
		24,000		32,000	44,000
総合計	(US\$)				100,000

* 援助国は拠出金総額(現金+DDFの総合計)のうち、少なくとも30%以上を拠出しなければなりません。

東大阪東ロータリークラブ



プレゼンター 芳田 至弘会員

■プロジェクト(奉仕活動)の名称

よろず相談室



■実施期間(継続中のもので、終了予定期日があるものはそれも含めて)

本年度 2017年5月21日(日)開催予定(第11回)

■実施場所(複数の場合はその全ての場所)

東大阪市立東体育館

■奉仕の種類

社会奉仕・職業奉仕

■ **協力団体(当該奉仕を実施するにあたって協力したロータリークラブ、他団体、もしくは協力者名)の名称及び連絡先**

東大阪市教育委員会・東大阪市社会福祉協議会・東大阪市枚岡警察署

■ **プロジェクト(奉仕活動)について**

【1】このプロジェクト(奉仕活動)の目的

すべての市民が日常生活の中で遭遇する様々な困難や悩みに、専門職が相談を受ける。

【2】このプロジェクト(奉仕活動)にかかった費用(継続中のものは総予算)

120万

【3】このプロジェクト(奉仕活動)の概要

高齢者、法律、健康、お金、生活、教育等の相談

【4】このプロジェクト(奉仕活動)の内容

(1) どういうきっかけでこのプロジェクト(奉仕活動)を始めましたか？

各家庭、各個人の悩み事が多いので。

(2) このプロジェクト(奉仕活動)を実施するに際の問題点は何でしたか？

幼稚園、小学校、中学校、商店街や市役所広報、老人会、各自治体へのチラシの配布の時期とタイミングが、難しい。

また、毎回、実施日に来ていただける各分野の相談員の先生方を確保することが困難である。

(3) このプロジェクト(奉仕活動)を実施したことにより、どんな結果が生まれましたか？

多数の相談者に喜んでもらった。また、クラブ一丸となって活動することができた。

(4) このプロジェクト(奉仕活動)を実施してよかったこと、他クラブにも推薦する内容があれば教えてください。

会員が一丸となれた事

東大阪西ロータリークラブ



プレゼンター 中西 英二会員

■プロジェクト(奉仕活動)の名称

自転車マナーアップ・キャンペーン



■実施期間(継続中のもので、終了予定期日があるものはそれも含めて)

平成 15 年から現在も継続中で今後も続ける予定

■実施場所(複数の場合はその全ての場所)

東大阪西部(布施警察署管内)

■奉仕の種類

社会奉仕

■協力団体

布施警察署 布施交通安全自動車協会 東大阪市 東輪会

■プロジェクト(奉仕活動)について

【1】このプロジェクト(奉仕活動)の目的

交通安全の啓発 特に自転車運転マナーの向上を目指す

【2】このプロジェクト(奉仕活動)にかかった費用(継続中のものは総予算)

約 200 万円

- ・キャンペーングッズの調達
- ・交通安全教育器材寄贈

【3】このプロジェクト(奉仕活動)の概要

- ・交通安全運動の推進及び育成
 - ・大阪府子供自転車交通安全大会(毎年6月下旬)
 - ・東大阪市民ふれあい祭りパレード参加(毎年5月上旬頃)
 - ・毎月8日は自転車マナーデー参加
- 8のつく(8, 18, 28)日に展開(毎月1~2回)。

【4】このプロジェクト(奉仕活動)の内容

(1) どういうきっかけでこのプロジェクト(奉仕活動)を始めましたか？

東大阪地域は自転車運転マナーが悪く、それが原因の交通事故が多発していた。この状況をなんとか改善できないかと考えて取り組みました。

(2) このプロジェクト(奉仕活動)を実施するに際の問題点は何でしたか？

このキャンペーン活動が効果を上げるか否かは、どれだけ多くの人々の賛同を得て、より多くの地域の方々が参加して頂けるかにかかっているという事。

(3) このプロジェクト(奉仕活動)を実施したことにより、どんな結果が生まれましたか？

地域で自転車に関係する交通事故が減少傾向にあると思われれます。

(4) このプロジェクト(奉仕活動)を実施してよかったこと、他クラブにも推薦する内容があれば教えてください。

地域の多数の方々が賛同して下さり、活動の輪が広がり、そのことが活動の効果を高めたこと。

東大阪みどりロータリークラブ



プレゼンター 杉森 隆志会員

■プロジェクト(奉仕活動)の名称

出前授業



■実施期間(継続中のもので、終了予定期日があるものはそれも含めて)

年間で4～5校(主に中学校)

■実施場所(複数の場合はその全ての場所)

東大阪市内中学校

■奉仕の種類

職業奉仕 青少年奉仕

■協力団体

無し

■プロジェクト(奉仕活動)について

【1】このプロジェクト(奉仕活動)の目的

地域の中학생に対し、学校の授業では体験できない実社会を認識させて社会的、職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を身につけてもらう。

【2】このプロジェクト(奉仕活動)にかかった費用(継続中のものは総予算)

実施した学校に対して、図書カードなどを記念に渡す(5000円程度)

【3】このプロジェクト(奉仕活動)の概要

メンバーが学校に赴き、社会人としての心得や働くことの意義などについて話し、実社会の現状(厳しさ、やりがい、難しさ、喜び)などを理解してもらい、将来立派な社会人として活躍出来るような人材を育てるきっかけとする。

【4】このプロジェクト(奉仕活動)の内容

(1) どういうきっかけでこのプロジェクト(奉仕活動)を始めましたか？

学校側からロータリーメンバーに対して、生徒達に社会人としての生の声を聞かせてほしいという依頼があり、平成17年より継続的に行っている。

(2) このプロジェクト(奉仕活動)を実施するに際の問題点は何でしたか？

多くのメンバーが学校で話をするようにしたいが、時間的なことや偏ったメンバーが話す事になってしまう。

学校側から専門的な職種(弁護士、医師、パティシエ、警察など)の話をしてほしいという依頼に対してメンバーがいないことがある。

(3) このプロジェクト(奉仕活動)を実施したことにより、どんな結果が生まれましたか？

学校側とのパイプが出来て、他の事業にも協力してもらえる。

メンバーが生徒の前で話すことによって自己研鑽が出来る。

(4) このプロジェクト(奉仕活動)を実施してよかったこと、他クラブにも推薦する内容があれば教えてください。

メンバーの満足感が持てる。

学校側に喜んでもらえる。

大阪ネクストロータリークラブ



プレゼンター 菊池 京子幹事

■プロジェクト(奉仕活動)の名称

大阪ネクスト RC10 年の奉仕活動の軌跡



じごもん音楽会



清掃ボランティア



福島児童養護施設に絵本を寄贈



フィリピンメガネ寄贈

■実施期間(継続中のもので、終了予定期日があるものはそれも含めて)

2007年～2016年まで

■実施場所(複数の場合はその全ての場所)

大阪府、福島県、宮城県、フィリピン

■奉仕の種類

チャリティーコンサート、メガネ・絵本の寄付、清掃

■協力団体(当該奉仕を実施するにあたって協力したロータリークラブ、他団体、もしくは協力者名)の名称及び連絡先

- チャリティーコンサート：協力：株式会社JCEC、後援：駐日本中華人民共和国大使館、IM4組をはじめ地区内のロータリークラブ
- 絵本寄付：共催：福島グローバルロータリークラブ、協力：出版社（リトルモア、トランスビュー）、IM4組をはじめ地区内のロータリークラブ
- 清掃ボランティア：共催：韓国昌原頂上ロータリークラブ、協力：NPO法人 greenbird (グリーンバード)

■プロジェクト(奉仕活動)について

【1】このプロジェクト(奉仕活動)の目的

- チャリティーコンサート：復興力のない子どもたちの保護の分野、生存と健やかな発達、子どもたち優しい空間、心のケアと教育再開を支援、などを目指して、チャリティーコンサートの収益金を寄付すること。
- 絵本寄付：東日本大震災に見舞われた福島県の子どもたちを元気づけるため
- 清掃ボランティア：姉妹クラブと親睦を図りながら町の美化

【2】このプロジェクト(奉仕活動)にかかった費用(継続中のものは総予算)

- チャリティーコンサート：約 250 万円
- 絵本寄付：約 20 万円
- 清掃ボランティア：0 円

【3】このプロジェクト(奉仕活動)の概要

- チャリティーコンサート：四川省出身の中国で最も名誉ある胡琴（こきん）の演奏家、姜克美（ジャン・クーメイ）さんを招待し、日中協力のもとで「日中・音楽チャリティーコンサート」を開催。
- 絵本寄付：福島市のロータリークラブと共同で、8か所の児童養護福祉施設に絵本を寄贈した。
- 清掃ボランティア：北新地駅周辺をトングやゴミ袋を持って掃除を行った。

【4】このプロジェクト(奉仕活動)の内容

(1) どういうきっかけでこのプロジェクト(奉仕活動)を始めましたか？

- チャリティーコンサート：四川の地震から数ヶ月が過ぎてニュースには出なくなってきたがまだまだ復興はしていないという状況について、何かできないかと会員間で話題にあがったことがきっかけ。

- 絵本寄付：クラブ5周年のタイミングで比較的新しい福島のロータリークラブとやりとりをするなかで、被災した子どもたちのために何かできないかと考えるようになったのがきっかけ。
- 清掃ボランティア：姉妹クラブの韓国昌原頂上 RC とコミュニケーションがなかなか取れにくいので、同じ目的を共有しながら親睦を深めるために行った。

(2) このプロジェクト(奉仕活動)を実施するに際の問題点は何でしたか？

- チャリティーコンサート：クラブ創設からの期間が短いタイミングで大きなイベント企画・開催だったため、負荷が大きかった。そのため、会員間での意思疎通や奉仕活動に対する考えの違い、クラブ内の手続き不整備などが問題となった。
- 絵本寄付：特になし。
- 清掃ボランティア：特になし。

(3)このプロジェクト(奉仕活動)を実施したことにより、どんな結果が生まれましたか？

- チャリティーコンサート：新聞をはじめ、いくつかのメディアでも取りあげてもらうことができ、四川の子どもたちに再び目を向けてもらうことができた。クラブ内では、負荷が大きい奉仕活動だったが、その後の方向性を考える良いきっかけとなった。
- 絵本寄付：他地区のロータリークラブと自発的に奉仕活動を展開できたことがクラブの自信となった。
- 清掃ボランティア：姉妹クラブとの親睦が深まった。タバコやごみのポイ捨てしないでおこうと意識が高まった。

(4)このプロジェクト(奉仕活動)を実施してよかったこと、他クラブにも推薦する内容があれば教えてください。

- チャリティーコンサート：メディア掲載など広報にも力を入れたので、ロータリークラブの認知度やブランドイメージの向上、また、クラブ会員のモチベーションアップにもつながった。
- 絵本寄付：2クラブ共同での奉仕活動であったが、それぞれの特性を活かして明確に分担できた点が良かった。大阪ネクスト RC：出版社とのネットワークを活かして絵本選定・出版社との交渉、福島グローバル RC：現地で適切な寄贈先の選定ならびに施設との交渉。
- 清掃ボランティア：コミュニケーションが難しい相手でも目的が理解できて、手軽にできる。また、一緒に体を動かすことで、不思議な親睦感と連帯感が生まれる。

東大阪中央ロータリークラブ



プレゼンター 岩橋 竜介会員

■プロジェクト(奉仕活動)の名称

「ケニア・ナイロビ・シーブケア学校給食支援バスプロジェクト」

■実施期間(継続中のもので、終了予定期日があるものはそれも含めて)

2017年～2020年の五年間(ただし、単発支援としては2013年と15年に実施)

■実施場所(複数の場合はその全ての場所)

ケニア共和国ナイロビ市内ソウェト地区にあるシーブケア学校(幼稚園～高等学校)

■奉仕の種類

国際奉仕

■協力団体(当該奉仕を実施するにあたって協力したロータリークラブ、他団体、もしくは協力者名)の名称及び連絡先

一般財団法人 日本国際飢餓対策機構

大阪府八尾市弓削町3-74-1 (072) 920-2225、(072) 920-2155 (FAX)

Eメール: general@jifh.org ホームページ: <http://www.jifh.org/>

■プロジェクト(奉仕活動)について

【1】このプロジェクト(奉仕活動)の目的

貧困にあえぐケニア・ナイロビのスラム街にあるシーブケア学校の給食に関わる費用を、自助努力によって賄えるように支援をし、自立を促す。

【2】このプロジェクト(奉仕活動)にかかった費用(継続中のものは総予算)

バス購入資金援助 合計 21,500 ドル (5年間の合計金額)

(3月15日現在 1ドル114円で 2,451,000円)

【3】このプロジェクト(奉仕活動)の概要

シーブケア学校では、1日1日を生き延びることに精いっぱい、将来の展望が描けないスラムの子ども達に教育の機会を提供し、その子ども達が学校に通い続けて、貧困の連鎖から脱することができるように、2000年の開校以来、保護者や近隣の人々の協力を得て、ささやかながら学校給食の提供を続けて来ました。

しかし、2010年末の大旱魃による食料価格の高騰のため学校給食の継続が困難となり2011年より日本国際飢餓対策機構(JIFH)を通して、日本の方々からの支援を受けてきました。その間、ただ支援を受け続けるのではなく、再び自分達の手で子ども達が学校に通い続けられる環境を整えたいと願ってきました。



そしてようやく、地元銀行の協力を得て、学校給食運営自立のための収入創出プロジェクトとして、51人乗りのバスを購入しました。地方から出てきた人々が暮らしている首都ナイロビでは、葬式や長期休暇の度に大勢で故郷に移動するという習慣があり、大型バスの需要が高いです。早期にローンを返済すると共に、バス事業を安定させ、少しずつ学校給食の運営を自分達で担っていき、ローン完済予定の2020年以降は、完全な運営自立を目指しています。



支援金獲得のために、2013年、15年度の単発支援の際には、阪神タイガースのマット・マーティン選手を招いてチャリティーイベントを開催し、2017年3月にはプロゴルファーの中嶋常幸氏をお招きし、チャリティーイベントを実施しました。

【4】このプロジェクト(奉仕活動)の内容

(1) どういうきっかけでこのプロジェクト(奉仕活動)を始めましたか？

当クラブは長年にわたって、JIFH との協力のもとに、フィリピンなどで国際奉仕の事業を行ってきました。2013 年に、JIFH との協力のもと、今回の奉仕プロジェクトの元となる単発の支援としてシープケア学校の給食支援を行いました。(50 万円) その支援を捻出するために、当時阪神タイガースの選手として活躍していた、マット・マートン選手を招いて、チャリティーイベントを実施し資金捻出しました。このことをきっかけにシープケア学校の支援について当クラブでも考えるようになっていきました。



(2) このプロジェクト(奉仕活動)を実施するに際の問題点は何でしたか？

実際に現地で資金が有効に用いられるように、フォローアップすることが肝心ですが、JIFH との連携によって、現地とのコミュニケーションやフォローアップを確実に行うことに注意しました。クラブが直接現地とコミュニケーションをするよりも、すでに関係を築いている JIFH を通してコミュニケーションをする方がスムーズに進められました。場合によっては、現地の団体や個人が、当該プロジェクト以外の支援を要求してきたり、横領するといったことが少なくない地域のことですので、専門の団体にゆだねて進めることが一番安全な方法であると認識しています。

また、資金捻出のためのチャリティーイベントに著名人をお招きする際には、チャリティーの趣旨を理解していただき、協力をお願いし、できるだけ多くチャリティー募金を支援金に回せるように配慮しました。

今後の課題としては、いつどのタイミングでケニアの現地を訪問するかが課題となっています。遠方でもありますし、費用も掛かります。誰を派遣し、何をするかなどを JIFH とも検討をしながら計画していきます。

(3) このプロジェクト(奉仕活動)を実施したことにより、どんな結果が生まれましたか？

貧困地域の人々を支援する際に、注意をしなければいけないのは、単に物(物品、施設、機会など)やお金を支援として差し出すと、現地の人々の中に外からの支援に対する依存心が生まれてしまい、延々と支援を待ち続け、一向に改善しないことが見受けられます。



JIFHの長期的な指導を得たシープケア学校に関わるリーダーが、この問題点に気づき、



自分たちで学校給食の費用を捻出できるように意見を重ね、検討した中で「バスプロジェクト」が生まれてきました。自分たちは支援を受けるだけのものだという考え方を換え、自分たちにもできることがあることを実行するようになりました。本来は、長期にわたって、返済をする予定でしたが、当クラブが支援を5年にわたってすることを通して、5年後には自立し、さらにバスの運用を継続するならば、学校給食のみならず、教育面への支援も可能となるために、5年の計画をもって支援するようにしました。先に見える支援と自立を目指しています。

また、このプロジェクトを支援する当クラブも、本当に支援先を助けることになる支援の在り方を学び、支援する側の満足や、都合を優先したやり方でなく、支援が確実に実を結ぶ方法を学ぶことができました。

支援獲得の方法としての著名人を招いてのチャリティーイベントは、それ自体がクラブの活動を盛んにし、皆が楽しんで取り組むことができ、ロータリー活動の面白さを味わうことができるものでした。

(4)このプロジェクト(奉仕活動)を実施してよかったこと、他クラブにも推薦する内容があれば教えてください。

すでに触れていますが、このプロジェクトにかかわることによって、本当に現地の人々の助けになっているかどうか、という現地本位の支援を考えることができるようになってきました。緊急災害援助などの場合は別として、もの、カネを与えるだけでは、一時しのぎでしかないことが多いことも学びました。「魚を与えるのではなく、魚の取り方を教える」ということの大切さを私たちも教えられています。



JIFHはこの点のエキスパートとして、現地のニーズや対応の仕方を熟知したうえで、きちんと支援が実を結ぶやり方で実施しています。他のクラブで、国際奉仕を検討しているところは、ぜひ連絡を取って相談してみることをおすすめします。

開 会 式

講評及び次年度ホストクラブ紹介



国際ロータリー第 2660 地区
IM第 4 組ガバナー補佐 林 芳繁

本日は、第 1 部の開会式に続き、第 2660 地区 IM 第 4 組ロータリーデー共同奉仕事業、益城町『未来トーク』への支援のご報告を頂きました。そして、各クラブプレゼンテーションテーマ『わたしたちの奉仕』を各クラブより発表して頂きました。

まず、八尾ロータリークラブより「リーダー研」・「自然の中で」、そして、大阪柏原ロータリークラブより「米作り奉仕」、更に、八尾東ロータリークラブより「姉妹クラブとの共同

奉仕事業」、そして、八尾中央ロータリークラブより「恵まれない子供達のためのプロジェクト」、また、東大阪ロータリークラブより、「花いっぱいプロジェクト」、「NPO東大阪日本語教室への支援」、「小学生大相撲観戦」、「東大阪ロータリークラブ・台中ロータリークラブ共同プロジェクト」等のご報告を頂き、休憩後には、東大阪東ロータリークラブより「よろず相談室・他」、また東大阪西ロータリークラブより、「自転車マナーアップキャンペーン」を、更に東大阪みどりロータリークラブより「出前授業(東大阪市内中学校)」、そして、大阪ネクストロータリークラブより「大阪ネクストRC10年の奉仕活動の軌跡」を、また、東大阪中央ロータリークラブより「ケニア・ナイロビ・シープケア学校給食支援バスプロジェクト」を報告して頂きました。

それぞれ、10クラブの地域に根ざした奉仕活動、又海外への奉仕活動、それは素晴らしい印象に残った「その地域に一つしかない活動であった」と思います。

「そのサービスを受けた地城の人々……」、そして、「サービスを実施したロータリアン……」、全ての人々に対する『心のケア、そして命をはぐくむ奉仕事業』であったと思います。

貴重な奉仕活動の10クラブの御発表ありがとうございました。

それでは、次年度国際ロータリー第 2660 地区 IM 4 組のロータリーデーのホストクラブは、八尾東ロータリークラブです。

大変ではありますがどうぞ次年度よろしくお願ひ申し上げます。

次年度ホストクラブ挨拶



国際ロータリー第 2660 地区
2017-2018 年度IMRDホストクラブ
八尾東ロータリークラブ会長 中澤 剛

本日は、東大阪中央ロータリークラブの皆様にご多大なるお世話をいただき、このような素晴らしい式典に参加させていただき有難うございます。

次年度は、我々八尾東ロータリークラブが、ホストクラブとして運営させていただくことになっております。日程については、2018年4月14日(土)、場所は、シェラトン都ホテル大阪で開催予定としております。

その次年度IMRDにつきましては、IM再編前年という事で、現在の第4組のメンバーでの最後のIMRD開催となります。当クラブメンバーは、皆、そういう意味からも通常にも増して、大きな重圧を感じており、非常に緊張しております。私、個人的には、会長職が今年で良かったと思っているのが正直なところではございます・・・。我々としては、まだ、来年のテーマも決まっていませんので、ここで、詳細を申し上げる状況ではございませんが、本日の式典を参考にさせていただき、これから来年に向けて思案し、形にしていきたいと考えております。

当クラブは、会員数も少なく、できる事も限られており、皆様には、多数のご迷惑やお手数をおかけする事になると思われませんが、我々は、精一杯努力する所存でございます。是非、来年のIMRDに皆様のご出席をお願い申し上げます。

開会の辞



2016-2017 年度IMRDホストクラブ
実行委員会副委員長 佐藤 三千秋

本日は 国際ロータリー第2660地区 松本進也ガバナー主催、IM第4組ロータリーデーを私ども東大阪中央ロータリークラブ担当で進めさせていただきました。御来賓の皆様 並びに IM4組10クラブ会員の皆様には、お昼からの長時間最後まで熱心に参加して頂き 誠に有難うございました。

一昨年、大阪柏原ロータリークラブより「ロータリーデーを考える」というアンケートを頂き、クラブ内でも色々協議し、昨年のロータリーデー終了後には

今回の実行委員会を立ち上げ 浅野委員長を中心に準備をしてまいりました。本日のプログラムのように IM4組全10クラブ参加型のロータリーデーとなりました。 つきましては、各クラブの皆様には奉仕事業発表内容の協議、また 特に本日の発表者の方には 先月のリハーサル実施 と労力と時間を割いて頂きました。ご協力に深く感謝致します。多大なご協力を頂いた分、本ロータリーデーの成果があったと存じます。最後に IMロータリーデーの益々の発展と皆様の素晴らしいロータリー活動を祈念して閉会の挨拶とさせていただきます。

懇親会

開会の辞



国際ロータリー第 2660 地区IM第 4 組
ガバナー補佐エレクト 百済 洋一

本会議に引き続きましての懇親会の開催に際しましてご挨拶をさせていただきます。

今回東大阪中央ロータリークラブがホストクラブとしてIM第4組のロータリーデーは、テーマ『わたしたちの奉仕』IM第4組各クラブが過去の奉仕活動を発表する参加型IMロータリーデーを開催致しました。

年度初めから各クラブ訪問・各クラブの会長・幹事との会議・開催直前の各クラブとのリハーサルとご協力を頂き、この場をお借りして

改めてお礼申し上げます。また、熱心に参加していただきました会員の皆様方、耳を傾けて頂いて、頷かれるなど最後までありがとうございました。今からは、この場におきまして、肩の力を抜いて気楽に論議に花を咲かせていただいで、親睦を深めていただければ幸いです。簡単ではありますが、懇親会開会の挨拶とさせていただきます。

閉会の辞



2016-2017 年度IMRDホストクラブ
ホストクラブ会長エレクト 宮田 照男

皆さん、本日は長時間にわたり、最後までお付き合い頂きまして、誠にありがとうございました。

今年のIM第4組ロータリーデーは『私たちの奉仕』『経験の分かち合いと、成長のために』のテーマのもと皆様にご協力を賜りまして、無事終了する事が出来ました事、心より御礼申し上げます。ロータリーの友やガバナー月信でみる他クラブの奉仕事業とは違い、IM

4組のお仲間ともいえる皆様の奉仕事業を拝見出

来ました事、わたくしの30年あまりのロータリアン生活の中でも刺激的で、感銘を受けました。また、わがロータリアン生活に間違いがなかったことを誇りに思います。本日発表していただきました奉仕事業から何かしらを参考にされ、これからの奉仕事業をお互い切磋琢磨していける喜びを感じて頂けたらと思う次第であります。最後に貴クラブの発展と皆様のご健康を祈念いたしまして、閉会の挨拶とさせていただきます。

IM第4組ロータリーデー





国際ロータリー第 2660 地区 I M4 組 10 クラブの奉仕活動プレゼンテーションを真摯に聞いていただき誠にありがとうございました。

東大阪中央ロータリークラブ 会員一同

懇親会





2016-2017年 IM4組ロータリーデー 収支決算報告書

収入の部

項目	明細	金額
地区助成金	地区からの補助金	300,000
クラブ登録料	2016年7月期初会員数 362名×7,000円	2,534,000
繰越金	前年度ホスト大阪柏原RCから	99,988
収支合計		2,933,988

支出の部

項目	明細	金額
会場関係費	リハーサル料	154,782
	ホテル会場代金	1,684,149
印刷関係費	リーフレット	4,580
	プログラム	111,650
	報告書代	22,085
講演関係費	ピアノ・ソング謝礼	30,000
	写真撮影費用	11,921
事務関係費	会長幹事会	88,000
	事務局・ピアノ・ソング食事手当	39,000
	事務雑費	39,650
	チラシ、プログラム郵送・振込み手数料	10,830
寄付	熊本地震復興支援	700,000
繰越金	次年度ホストクラブ八尾東RCに繰越	37,341
支出合計		2,933,988

2016-2017年 IM実行委員会組織一覧表

実行委員長	浅野 光男	
副委員長	佐藤三千秋	岡本 慎一

委員会	委員長	委員
企画運営	百済 洋一 岩橋 竜介	小川 高弘 中村 徹
会計	中村 徹	
登録	飯田 政信	
会場監査	金子 勝信	細川 勝治 長堀 哲矢
記録・広報	長堀 哲矢	鈴木 勝俊 伊藤 雄一
来賓接待	藤原 英夫	林 孝信 近藤 力 瀧田 浩彦 宮田 照男
救護	尾崎 元	
会場	三木 武志	長堀 哲矢 伊藤 雄一
懇親会	岩崎 史郎	佐井 義昌
司会	岡本 慎一	岩橋 竜介
ピアノ・ソング	辻本 恭子	大崎 康枝
事務局	脇門 初美	



INTERCITY MEETING

ROTARY DAY

東大阪中央ロータリークラブ

〒543-0031 大阪市天王寺区石ヶ辻町 2-8 クレアツィオーネ上本町 704 号

Tel 06-6772-2320 Fax 06-6772-2327 E-mail hcrc@at.wakwak.com